



# SDGsとコープみらい

## コープデリグループのSDGs重点課題

国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」とコープデリグループの理念「CO-OP ともに はぐくむ くらしと未来」が目指す方向は同じです。

「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」は、コープデリグループが重点的に取り組むべき課題と目標を掲げることで、社会における役割と存在意義を明確に示し、SDGs達成に貢献するべく策定しました。

コープデリグループ  
理念

CO-OP  
ともに はぐくむ  
くらしと未来

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



コープみらいはSDGsが国連で採択される以前から、リサイクル活動やエシカル消費対応商品の取り扱いなど持続可能な社会づくりに取り組んできました。私たちの事業と活動自体がSDGsに沿った取り組みと言えるかもしれません。

SDGs重点課題で掲げた目標は、コープデリグループ単独では実現することは困難です。目標の達成状況、取り組む姿勢を社会に向けて発信することで、組合員や同じ志を持つ企業・団体とつながり、ともに達成を目指していきたいと考えています。



コープデリグループの  
マスコットキャラクター  
“ほべたん”

私たちは、「未来へつなごう」をスローガンに掲げ、グループ全体でSDGs重点課題の目標達成に向け取り組みを進めていきます。

# 未来へつなごう

SDGs 重点課題 **01**

持続可能な生産と消費のために

P16-23

持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます



SDGs 重点課題 **02**

安心して暮らせる地域づくりのために

P24-27

誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに貢献します



SDGs 重点課題 **03**

人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

P28-31

1人1人の人権・多様性が尊重され、誰もが安心して働ける職場づくりを進めます



SDGs 重点課題 **04**

100年後の地球のために

P32-35

再生可能エネルギーの利用・普及を進め、地球温暖化対策を進めます



SDGs 重点課題 **05**

世界中の人々の平和で健康な生活のために

P36-39

世界から飢餓や貧困をなくし、世界平和を実現できる取り組みを進めます



# 未来 つなごう



# コープみらい

エスディーゼス

## SDGsの取り組み

02 コープデリグループのSDGs重点課題

06 トップメッセージ

08 特集《特別対談》

### 「国際協同組合同年」を迎えて

国連広報センター 所長 根本 かおるさん × 代表理事 理事長 熊崎 伸

14 コープみらいのサステナビリティ活動のあゆみ

### SDGs重点課題と2024年度の取り組み

16 **01** 持続可能な生産と消費のために  
持続可能な生産と消費のために、  
商品とくらしのあり方を見直していきます

24 **02** 安心して暮らせる地域づくりのために  
誰もが安心してくらし続けられる  
地域社会づくりに貢献します

28 **03** 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して  
1人1人の人権・多様性が尊重され、  
誰もが安心して働ける職場づくりを進めます

32 **04** 100年後の地球のために  
再生可能エネルギーの利用・普及を進め、  
地球温暖化対策を進めます

36 **05** 世界中の人々の平和で健康な生活のために  
世界から飢餓や貧困をなくし、  
世界平和を実現できる取り組みを進めます

40 サステナビリティデータ

43 ガバナンス・内部統制

44 コープ(生協)について

45 コープみらいとコープデリグループについて

46 コープみらいの事業と活動

コープみらいは前身の生協から半世紀以上にわたり  
人と自然が共生する社会と平和な未来づくりに取り組ん  
でまいりました。

今後皆さまとともに豊かな未来をはぐくむために  
コープみらいは新たな試みに挑戦していきます。

### 編集方針

「コープみらい サステナビリティレポート2025」は、SDGs  
(持続可能な開発目標)を指針とし、コープデリグループの理  
念・ビジョンと関連付けながら、主な取り組みを紹介し、「コー  
プデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標  
と中期方針～」で掲げた目標と進捗状況を報告します。

#### 【対象者】

組合員・消費者、職員、社員、取引先、地域社会、未来社会

#### 【対象期間】

特に断りのない限り2024年度(2024年3月21日～  
2025年3月20日)です。

#### 【対象範囲】

コープみらいの活動を中心に報告していますが、コープデリ  
グループ全体で行っている活動についても掲載します。なお、  
コープデリグループ、コープデリ連合会については、45ページ  
をご覧ください。

#### 【報告数値】

特に断りのない限りコープデリグループの数値を掲載し、  
コープみらいの数値の場合はその旨を明記します。数値は端  
数処理をしているため、合計値が合わない場合があります。

#### 【発行年月】

2025年7月

コープみらい  
サステナビリティサイト >



サステナビリティサイト  
動画ギャラリー >



コープデリグループの  
サステナビリティ  
Instagram >



# トップメッセージ



**「未来へつなごう」を  
スローガンに、  
助け合いの組織として、  
地域共生社会づくりに  
参画し続けます。**

代表理事 理事長

熊崎 伸

コープみらいの事業と活動へのご協力・ご支援に心より御礼申し上げます。

コープみらいは、コープデリグループの一員として同じ理念・ビジョンを掲げ、持続可能な社会づくりに取り組んでいます。理念・ビジョンとSDGsの目指す方向は同じです。私たちは協同組合の特徴と強みを生かし、SDGsの実現に貢献するため、2021年に「コープデリグループのSDGs重点課題」を策定しました。「未来へつなごう」をスローガンに、事業と活動を通じて課題の達成を目指します。

2025年は国連が定めた「国際協同組合年」です。協同組合は、SDGsを達成する上で重要なステークホルダーと位置付けられています。こうした中、2025年5月に「国際協同組合年に当たり協同組合の振興を図る決議」が国会で採択されました。「協同組合はよりよい世界を築きます」をテーマに、協同組合の価値を広げてまいります。

世界各地での紛争の激化、自然災害の発生、物価高・貧困と格差の拡大など、暮らしを取り巻く環境は厳しさを増しています。2024年に日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞されました。コープみらいは理念・ビジョンのもと、ピースアクションなどの平和活動を進めています。2025年は被爆・戦後80年。平和の尊さを再確認し、活動

を次世代に受け継ぐ取り組みを広げてまいります。

2024年の能登半島地震・豪雨災害では、組合員の皆さまより4億円を超える募金をお寄せいただきました。心より感謝申し上げます。コープみらいは助け合いの組織として、被災地で奮闘するコープいしかわへの職員派遣など、被災された方々の笑顔を取り戻すための支援を続けてまいります。

ひとり親・両親がいない家庭の高校生・高等専門学校生を支援する奨学金給付事業では、毎月定額の募金に協力していただく組合員の「奨学金応援サポーター」が3万人を超えました。皆さまの安定した支えが、今年度も1,700人以上の奨学生の実夢につながっています。引き続き、皆さまのあたたかいご支援をお願いいたします。

コープみらいは、これからも事業と活動の総合力で組合員の皆さまの暮らしに貢献し、「誰ひとり取り残さない」社会の実現を目指します。生産者・取引先の皆さま、行政・諸団体の皆さまとのパートナーシップを大切に、「ともに」の力で笑顔の明日を迎えられる社会を目指してまいります。

コープデリグループ理念

CO-OP

ともに はぐくむ 暮らしと未来

コープデリグループ ビジョン2035

# 食べるしあわせ、自分らしい暮らし 「ともに」の力で、笑顔の明日を

私たちは、助け合いの心と協同の力が生み出す「ともに」の力で  
未来をきりひらき、誰ひとり取り残さない社会を創ります

食の安全と安心を第一に、生産から消費のつながりをより豊かにし  
おいしさ、健やかさ、楽しさ、便利さなど  
それぞれの **食べるしあわせ** を叶えます。

さまざまなライフスタイル・ライフステージに寄り添った  
商品やサービス・多彩な活動で、**自分らしい暮らし** を実現します。

人を大切に多様性を認め合い、学びと対話を重ねながら  
**願いをかたちにする組織** を目指します。

地域の課題と、環境や平和などの地球規模の課題に向き合い  
さまざまな組織・団体とつながり  
**次世代に笑顔が続く社会** の一翼を担う存在になります。

※ビジョン2035は、組合員・働く仲間がともに掲げる2035年のありたい姿を表したものです。



# 対談

# 「国際協同組合年」を迎えて

国連は、2025年を「国際協同組合年」と定め、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けて協同組合の価値の認知を高めることを求めています。協同組合は、生協をはじめ、農協、漁協、労働者協同組合、信用組合など、共通の目的を持つ人々が集まって協力し合い、より良い生活を目指す組織です。

2025国際協同組合年の意義と、コープデリグループが社会から求められる役割について、国連広報センターの根本所長にお話を伺いました。



国連広報センター

所長 **根本 かおるさん**

コープデリ生活協同組合連合会

代表理事 理事長 **熊崎 伸**

## SDGs達成に向けた協同組合への期待

**熊崎** 2023年11月の国連総会第47回本会議で2025年を国際協同組合年とすることが宣言されました。2012年以来2回目となり、大変光栄であるとともに身が引き締まる思いがいたします。

**根本** 2025年はSDGsのゴールまで5年という節目の年です。その節目に2回目の国際協同組合年が定められたことには、SDGs達成への大きな期待があります。

**熊崎** その期待についてお話しいただけますか。

**根本** まずはSDGsの現在地からお話ししましょう。SDGsは2015年9月の国連総会で採択され、2016年1月1日に発効されました。2030年までに持続可能な世界をつくるのが目標です。採択から10年が経過しましたが、現在はピンチに陥っています。SDGsは17のゴールの下に169のターゲット（目的）を掲げていますが、

国連は2024年の報告書の中で169のターゲットのうち順調なのは17%にすぎないと発表しています。

熊崎 厳しい状況ですね。

根本 2019年にSDGサミットが開催され、取り組みを加速するために、2020年から2030年までを「SDGs達成のための行動の10年」と決めました。ところが、その矢先、新型コロナウイルス感染症により世界が大きな打撃を受け、貧しい国々ではその影響が今も尾を引いています。その後ウクライナ戦争が勃発し、食料やエネルギー価格が高騰しました。経済格差はさらに広がり、気候変動はますます深刻です。またAI技術の発達により、国際社会の信頼が損なわれてしまうような誤った情

報も蔓延<sup>まんえん</sup>しています。そして圧倒的に資金が足りない。先進国にも余裕がなく援助に回せる資金がないのです。

そういった状況下で、経済・社会・環境のバランスの取れた形で、利益優先型経済では取り残されてしまうような人たち(女性、若者、高齢者、障がい者など)の社会参加を促し、経済的地位の向上を目指して活動する協同組合という存在に、改めて熱い期待が寄せられているのです。

熊崎 ありがとうございます。自分たちが所属する協同組合にどのような価値があるか、わかりにくいものですが、改めてこのように言ってもらえると、期待に応えようと力が湧いてきます。

## 数字で見る協同組合

日本の組合員数

1億835万人

(複数の協同組合に加入している場合は重複して計上しています)

世界の組合員数

10億人

日本の購買事業

協同組合の食料品・  
生活用品供給高

4兆円

日本の販売事業

国内農林水産業産出額の

半分超

が協同組合を通じて  
出荷・販売

日本の信用事業

国内の預貯金額の

22%

が協同組合へ  
預けられています

世界の協同組合数

300万組合以上

世界の上位300の協同組合

事業高合計

2兆4,000億米ドル



## 気温上昇を止めるために個人でできる10の行動

**熊崎** 国連ではどのような取り組みをされているのでしょうか。

**根本** SDGsがピンチと申し上げましたが、国連では仕組みレベルでの変革に力を入れています。現状を打破するゲームチェンジャー（流れや状況を大きく変える存在）になるようなインパクトの大きなことに、加盟国の政府と一緒に取り組もうとしています。その中で6つの領域の変革を掲げました。食料システム、気候変動・生物多様性の保全などの環境対策、デジタル化、教育、再生可能エネルギー、社会保障と雇用です。

食料システムを1番最初に掲げ、原料の生産から消費そして廃棄まで、サプライチェーンの全てを持続可能なものに変革しようとしています。食はそれほど波及効果が大きいのです。

コープデリグループのビジョン2035でも「食べるしあわせ」と、食を中心に据えてくださっていると拝読しました。

**熊崎** ビジョン2035は、若手職員31人のワーキングチームを中心に、組合員の意見を取り入れながら策定しました。「食べられる」ではなく「食べる」でいいのかと、随分、議論をしました。食べるときに産地や生産者、製造者などさまざまなことに思いを寄せ、大きな意味で、食べることで皆がしあわせになれる、そんな世界をつくりたいと掲げたものです。

**根本** 国連では気温上昇を止めるために「個人でできる

10の行動」を提案し、世界中に呼びかけています。廃棄食品を減らすであったり、環境に配慮した製品を選ぶといったことも呼びかけています。いずれも国連のさまざまな統計やデータに裏打ちされており、簡単にできることをピックアップしてまとめたものです。



**熊崎** 呼びかけと取り組み

は生協の出番かもしれません。生協は事業者であり、日本最大の消費者団体でもあります。事業活動と消費行動の相乗効果を生み出せることが強みです。コープデリグループには、540万人の組合員と2万5000人の役職員がいます。一人ひとりの組合員と役職員が、社会や環境のために「私は何ができるだろう?」と、ともに考え、行動することも、国際協同組合年として期待されているのではないのでしょうか。

**根本** もちろんそれもあります。生協は組合員さんのくらしに寄り添いながら、SDGs推進の旗振り役も担える存在です。

**熊崎** 次の未来のために、組合員とともに学び、一歩、踏み出せるように頑張っていきます。

## 国際協同組合年とは

国連は、平和や人権など特定のテーマや問題に焦点をあて、世界中の人たちの意識を高めたり、行動を促したりすることを目的として「国際年」を制定しています。

2025年は「国際協同組合年」と定められ、協同組合が人間らしい仕事の創出や、すべての人が参加できる社会

づくりなど、さまざまな分野で持続可能な開発目標 (SDGs) に貢献していることが評価され、その認知度向上と振興が図られます。

コープデリグループは国内の協同組合と連携し、協同組合の価値や役割について学び、実践し、発信していきます。

### 国際協同組合年における私たちの活動例

#### 学 び

国際協同組合年について学び、身近な人たちと共有してみる。  
協同組合らしさ  
(アイデンティティ)を学ぶ。

#### 実 践

みんなで話し合い、  
つながりを広げて、  
できることから始めてみる。

#### 発 信

学んだこと、実践したことを  
周囲に伝え、  
地域のつながりを広げていく。

## 持続可能な社会をつくるエシカル消費

**根本** コープデリグループはエシカル消費にも力を入れておられますよね。作り手の人権、環境に配慮したものを買って、それをくらしの豊かさにつなげる。私は買い物は楽しいことだと思います。その楽しさを作り手あるいは流通に携わる方々の幸せにもつなげることができるのはエシカル消費のすばらしさです。

**熊崎** エシカルのお話をいただいたので、コープデリグループの取り組みを紹介させてください。一つは産直米の産地、新潟県佐渡市で2010年にスタートした「佐渡トキ応援お米プロジェクト」です。「CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ」と、その



加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキやささまざまな生きものと共生する環境にやさしい農業を応援しています。ほかにも、もずくの売り上げの一部を沖縄県伊平屋村の「美ら島<sup>ちゅしま</sup>応援基金」に寄付する「美ら島応援もずくプロジェクト」もあります。これらは商品の利用を通じて、持続可能な農業や水産業を応援することができます。

**根本** 生協は一つのメディアだと私は思っているんです。背景にある生産者の物語だったり、地域にもたらす効果の話であったり、組合員の皆さんはそういうことを知って、対価である商品代金を支払います。

田んぼを耕作放棄地にしないために飼料用米を栽培し、豚の餌にする事業もされていますね。

**熊崎** 2008年から取り組む「お米育ち豚プロジェクト」です。飼料用米を栽培し、餌に配合して豚を育てています。肉にはほのかな甘みがあり、味もいい

と評判です。

**根本** ストーリー性だけではなく、おいしさも大切ですよ。

**熊崎** もちろんです。おいしくないと利用していただきません。飼料用米の生産者、配合飼料の製造会社、集荷業者などさまざまな人たちが携わり、組合員が利用し、また次の豚を育てる循環型のしくみが完成しています。

**根本** 農業を下支えし、次につなげる意義のある取り組みですね。

**熊崎** 北海道・足寄(あしよろ)町で「産直はなゆき農場有機牛」という持続可能な畜産業にもチャレンジしています。有機牛の生産は飼育条件、飼料、健康管理など厳しい有機JAS基準があり、新たにはじめるには生産者の負担がとても大きい。コープデリグループは預託という形で、子牛を買い取り、預託料をお支払いし、生産者が牛の肥育に専念できるよう支援しています。成長した牛は優先的にコープデリグループに出荷され、組合員に販売する取り組みです。

**根本** その牧場では何頭くらいの有機牛を飼育されているのですか。

**熊崎** すでに60頭になっています。埼玉県出身の若手女性生産者が、このはなゆき農場の代表として取り組んでいます。若手生産者を支援することで日本の畜産業を応援し、環境にもやさしい飼育をする一石三鳥ぐらゐの取り組みです。

**根本** 女性支援にもつながるすばらしい取り組みですね。





産直はなゆき農場有機牛

**熊崎** コープデリグループではエシカル消費に対応した商品を2030年までに全商品の20%にすることが目標です。開始した2019年には10%でしたが、23年までで16%に達しました。あと一息、ぜひ達成させたいと思います。

**根本** サステナビリティは我慢ではなくて生活を豊かにしてくれるものだと思いたいです。その意味では情報を発信するメディアが、大切なパートナーになります。国連にはSDGsに熱心に取り組む世界のメディアとの連携の枠組みがあります。約400社が参加していますがそのうち220社が日本のメディアです。SDGsが社会にこれだけ浸透したのも、メディアが多様なキャンペーンをしてくださったおかげです。私たちにとってはメディアは情報を発信し、人を巻き込む上で非常に重要です。これだけ高まっているSDGsへの関心をテコにして、メディアの力で多くの人を巻き込み、この危機を乗り越えたいと考えています。

**熊崎** さきほどの「個人のできる10の行動」にも電気自動車への乗り換えなど、気候変動対策のために理解と覚悟が必要なことも書かれていますね。

**根本** 気候変動は、多くの人に大きな影響を与えています。生産者が作物をつくり続けられなくなるなどの影響もありますか。

**熊崎** さまざまな影響があります。猛暑や豪雨による農産物の産地適性の変化や対策への農家の負担増加、そして不作は価格高騰につながり、更には国産品が手に入らなくなる未来も考えられます。気候変動による産地の変化を、組合員にしっかり伝えていくことも、生産者を守ることに繋がります。

ですので、意識的に取り組んでいかなければと考えています。

## 生協は助け合いの組織

**熊崎** 気候変動は異常気象による災害も引き起こしています。各地で災害が発生した際には募金に取り組んでいます。過去の台風・大雨被害や、昨年の能登半島地震などの災害では組合員から多くの募金が寄せられました。

**根本** 困ったときはお互いさま。組合員さんは相互扶助の精神が強いのでしょうか。

**熊崎** 生協は助け合いの組織です。寄付の形も多様で、コープデリグループのコープみらい・いばらきコープ・コープぐんまでは、高校生を対象にした奨学金給付事業を行っています。これは組合員が奨学金応援サポーターとなり毎月一口100円単位で寄付をし、組合員のひとり親家庭などの高校生に奨学金を給付する事業です。組合員が組合員を応援する輪が広がっています。

**根本** 誰一人取り残さないというSDGsの理念に沿った素晴らしい事業ですね。小口で大勢の人たちが支えるというのも、持続可能な支援の形だと思います。



## 平和の大切さを次世代につなぐ

**熊崎** ウクライナ、ガザ・イスラエル人道危機のための募金も実施しました。日本の人たちも本当に人ごとではなく、我がこととして平和に対する関心が高まったのではないのでしょうか。

**根本** 核兵器廃絶運動を続けてきた日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が、2024年のノーベル平和賞を受賞しました。最初は被爆者として被害者だった人たちが、サバイバー、生き抜いた人になり、今はピースビルダー、平和をつくる人になりました。たくましさと再生力を持つ姿に感銘を受けました。

国連では9月26日を「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」と定めています。これは日本にとって次世代につないでいかなければならない重要な日です。平和の大切さをつなぐことは、SDGsが達成された後の世界にもとても大切です。

**熊崎** 全国の生協は、平和活動「ピースアクション」に取り組んでいます。コープデリグループの組合員も、広島、長崎、沖縄で行われるピースアクションに毎年参加しています。最近では、テレビのニュースなどを見て関心を持った学生が1人で申し込むことも少なくありません。こういった若い世代に平和をつないでいくことも、生協の役割だと思っています。

**根本** ウクライナやガザのすさまじい破壊の映像ばかりが伝わってくる中で、やはり平和があつてこそくらしが成り立ち、くらしはまた平和を支えるというコインの表と裏みたいな関係だと一般の方々も感じているのではないかと思います。2025年は戦後80年の節目の年でもあります。若い力はとても重要です。

**熊崎** 平和も含め、次世代につないでいく大切さは、ビジョン2035でも掲げています。

"「ともに」の力で、笑顔の明日を"は、コープデリグループだけでなく、さまざまな組織・団体とつながって、地域の課題と環境や平和などの地球規模の課題に向き合い、次世代に笑顔が続く社会の一翼になりたいという想いを込めました。

私たちは理念の中に、豊かなくらしの基盤に平和は欠かせないもの、くらしを守る生協だから平和活動をしていく想いを込めています。その理念を大切に、国際協同組合年の出発点にできたら

いいと思います。

**根本** 国連も同じです。2つの世界大戦を経て生まれた組織で、今年80年になります。大変幅広い課題に取り組んでいる組織ではありませんけれども、1番の存在理由はやはり平和です。2025年は世界にとって大切な年です。非常に重要な年に、国際協同組合年が定められたと感じています。

**熊崎** 最後に、生協は助け合いの組織であると同時に、学びの組織でもあることをお伝えしたいです。人は学ぶと責任が芽生えます。学ぶことが、一人ひとりの行動を変えることにつながるのです。学びを大切に、よりよい社会にしていけるために、「ともに」の力で協同組合ならではの価値を発揮したいと思います。

**根本** さきほど国連がメディアとネットワークを作っているお話をしましたが、生協の場合、組合員さんや組合員さんが持つネットワークで多くの人とつながることも大切になりますね。

持続可能な社会の実現のために、ぜひ、連携していきましょう。

**熊崎** 2025国際協同組合年を迎え、私たちの活動がより多くの人々と、ともに学び、成長する機会となることを願っています。平和で笑顔あふれる未来を次世代につなげるために、ともに力を合わせていきたいと思っています。

本日は貴重なお話をありがとうございました。



ピースアクション in オキナワ

# コープみらいの サステナビリティ活動のあゆみ

前身の生協から続くコープみらいの歴史は、一人ひとりの力は小さいけれども、地域の人々が話しあい、協力しあって、くらしや地域をより良くしようとしてきた活動に満ちあふれています。その活動はSDGsが掲げる目標そのものです。時代が変わっても、人々がくらしの豊かさを願う気持ちは変わりません。私たちはこれからも、くらしに関するコミュニケーションを広げ、国際社会の相互理解を基礎とした平和を追求し、人が自然と共生できる社会システムづくりを通して、持続可能な社会をつくり、次世代へ継承していきます。



## 1940年代～ 地域の中で急速拡大

コープみらいは、それぞれの地域で暮らす人々が、手を取り合って設立した生協が源流です。組合員は、公正な価格で商品を購入したい、安全な食品を食べたい、環境への悪影響を減らしたい、そして、平和な世の中を追求したいなど、さまざまなくらしの願いを実現するために、一步一步進んできました。

1947 **高階村生協** (旧さいたまコープの前身) を設立

1949 **登戸生協** (旧ちばコープの前身) を設立

1957 **桐ヶ丘団地生協** (旧コープとうきょうの前身) を設立

1960 くらしを守る価格への挑戦**CO・OPバター** (コープ商品第1号) 誕生



1966 生協の環境や社会に配慮した商品開発の先駆け、衣料用洗剤「**CO・OPソフト**」発売。組合員アンケート、5000人による使用テストを実施



1979 「バケツ1杯の水」を贈る運動として**ユニセフ募金**の取り組み開始

1979 「本場の味を日本の食卓へ」コープイタリアとの提携で「**CO・OPイタリアアスパゲッティ**」誕生



12

1980年代～



## 活動が社会を動かす力に

はじめは地域の中で活動してきた生協も、生協運動の高まりとともに拡大していきます。環境問題や、食の安全性確保の活動が広がる中、独自のコープ商品の開発・普及に、多くの組合員が参加しました。

小さな生協同士の組織合同も進み、組合員による活動は社会を動かす大きな力となりました。

1980年代 **牛乳パックリサイクル運動**を開始

1983 **牛乳パックリサイクル運動**の再生紙を使った**コアノンロール**発売



1990 日本で初めて「**ステイオンタブ缶**」の商品をCO・OP商品で開発



◀ 昔のプルタブ缶

現在のステイオンタブ缶▶



▶ 1995 「容器包装リサイクル法」が制定

1996 「地震災害等に対する国民的保障制度を求める」署名運動の全国実施

▶ 1998 「被災者生活再建支援法」が制定

2001 「食品衛生法改正と充実強化を求める請願署名」の全国実施

▶ 2003 「食品安全基本法」が制定

## 連帯による新たな挑戦

連帯の動きは県域を越え、事業連合への加入を通じて多様な取り組みが展開されました。

1995年のICA（国際協同組合同盟）総会では協同組合の定義、価値、7つの原則が定められました。社会における生協の役割が大きくなる中で、食を中心に地域社会において着実な活動を続けてきました。

1992 **コープネット事業連合**（現コープデリ連合会）設立、ちばコープ、さいたまコープが加入

1999 コープとうきょうがコープネット事業連合に加入

2006 グループ共通の「理念」、**「2015年ビジョン」**を制定



2007 新しいグループシンボル「**グリーンバルーン**」と宅配事業ブランド



「**コープデリ**」、グループキャラクター「**ほべたん**」を発表

2008 **ハッピーミルクプロジェクト、お米育ち豚プロジェクト**開始



2010 **佐渡トキ応援お米プロジェクト、美ら島応援もずくプロジェクト**開始



2011 「東日本大震災」発生。緊急支援物資の提供、職員・組合員ボランティアによる復旧・復興支援、「東日本大震災復興支援募金（2011～2019）」などを実施

▶ **2012** 国連が定めた国際協同組合同年

## くらしの願いを未来へつなぐ

「ひとつになって、みらいへ。」を宣言して、日本最大の生協となるコープみらいが誕生しました。

コープみらいがこれまでに組合員と地域とともに、助け合いの心と協同の力で培ってきた、多彩な活動とくらしに寄り添った事業は、「ともに」の力で、これからも歩みを進めてまいります。

2013 ちばコープ、さいたまコープ、コープとうきょうが組織合同（合併）し、**コープみらいが誕生**

2015 一般財団法人**コープみらい社会活動財団**を設立

地域の誰もが参加できる集いの場「**みらいひろば**」を開始

▶ **2016** 「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録

2017 コープネット事業連合を**コープデリ連合会**に組織名称変更

2018 奨学金給付事業開始

**コープデリ商品検査センター**を移転・拡張し開設



2021 「**コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～**」を策定

**未来へつなごう**

2022 **産直はなゆき農場有機牛**を発売

コープみらい子ども子育て支援

基金「**はがき・切手回収キャンペーン**」開始



2024 コープデリグループ「**ビジョン2035**」を策定

▶ **2025** 国連が定めた2回目の国際協同組合同年

## 01



# 持続可能な生産と消費のために



佐渡トキ応援お米プロジェクト  
JA佐渡 産地交流・研修会

## 持続可能な生産と消費のために、 商品とくらしのあり方を見直していきます

- 1 人や社会、環境に配慮した商品を選んで使うエシカル消費に対応した商品の開発と拡大・普及を推進し、2030年度までに2019年度供給高構成比2倍を目指します。あわせて、消費者（組合員）にエシカル消費への共感と行動を広めていきます。
- 2 コープデリで取り扱う商品について、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」ができるよう取り組みを進めます。
- 3 産地とパートナーシップを深め、持続可能な農水畜産物の生産・消費に貢献できる取り組みを進めます。
- 4 事業における容器包装と資材の使用量を削減します。プラスチックは、2030年までに2018年度比25%削減します。家庭でできるプラスチック・容器包装削減の取り組みを進めます。
- 5 サプライチェーン全体における食品廃棄物、食品ロスの削減を進めます。食品廃棄物は2030年までに2018年度比50%削減します。家庭での食品ロス削減を進めます。

## 生きものにやさしい米づくりで、佐渡をトキのふるさとに ～佐渡トキ応援お米プロジェクト

詳細はこちら



コープの産直米の産地、新潟県佐渡市では、トキをはじめとするさまざまな生きものと共生する農業に取り組んでいます。2010年にスタートした佐渡トキ応援お米プロジェクトは、「CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ」とその加工品の売り上げの一部を「佐渡トキ環境整備基金」に寄付し、トキやさまざまな生きものたちと共生する、環境にやさしい農業を応援する取り組みです。2024年度は345万558円を寄付しました。

佐渡のお米を食べることが、生きものを育む環境づくりやトキと共生するお米作りの応援につながります。



寄付額累計

# 3,972万2,653円



## 伊平屋島がこの先もずっと、美しい島でありますように ～美ら島応援もずくプロジェクト

詳細はこちら



コープの産直もずくの産地、沖縄県伊平屋島には、ウミガメがやってくる白い砂浜や美しい海が今も残っています。その自然環境のもと、良質なもずくが育てられていますが、近年、海から砂浜へ大量のごみが流れ着き大きな問題となっています。

2010年よりスタートした美ら島応援もずくプロジェクトは、もずくの売り上げの一部を伊平屋村「美ら島応援基金」に寄付し、漂着ごみの運搬・処理など、自然環境保護活動に役立てる取り組みです。2024年度は216万3,698円を寄付しました。

伊平屋島のもずくを食べることが、島の自然環境を守り、その美しさを保つことにつながります。



寄付額累計

# 2,118万9,964円



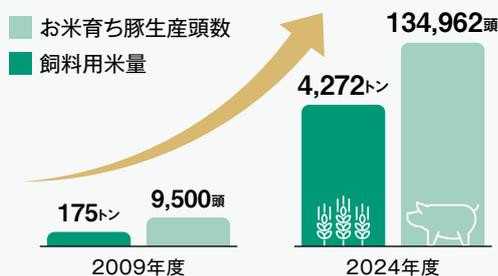
## 日本のお米づくりをささえる、お米育ちの産直豚 ～お米育ち豚プロジェクト

詳細はこちら



日本のお米の消費量は50年前に比べ半減しています。2008年にスタートしたお米育ち豚プロジェクトは豚のエサ用のお米「飼料用米」をつくり、豚に飼料用米を食べさせることでお米の消費量を増やす取り組みです。

お米育ち豚を食べることが、日本の食と農業、そして畜産業を元気にすることにつながります。



飼料用米を生産する田んぼ面積

# 712ha

(1haあたりの収穫量6トンで算出)



## エシカル消費拡大に向けた取り組み

### 誰かの笑顔につながるお買い物 ～エシカル消費

コープデリグループは、地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買う「エシカルなお買い物」を積極的に応援しています。

エシカルとは、直訳すると「倫理的な」という意味です。自分視点だけでなく、環境や社会など他者への視点をプラスして買い物をすることができるよう、有機JAS、フェアトレード、レインフォレスト・アライアンス、MSC、ASC、MEL、FSC、RSPO、エコマークなどの認証・認定商品をはじめ、寄付金付き商品の取り扱いや日本の農畜産業を応援し食料自給力を高めていくため飼料用米の活用を進めています。

※認証マークについてはP40を参照。



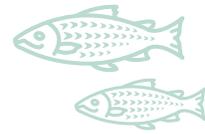
詳細はこちら



エシカル消費対応商品供給高

# 1,046億円

### あらたな持続可能な養殖のかたち「陸上養殖」 ～おかそだちサーモン®



詳細はこちら



持続可能な養殖方法として注目されている陸上養殖は、水質や魚の健康といった環境をコントロールしながら育てることができ、おかそだちサーモン独自の水を循環させる「閉鎖循環式陸上養殖システム」は、海を汚さない養殖方法です。また、魚病リスクがないためサーモンに抗生物質を使用していません。

千葉で育てられるサーモンは、凍結せず新鮮なままお店に届けられます。現在は生産量が少なく一部店舗での取り扱いですが、新たな養殖プラント建設を受け、今後は多くの組合員へお届けすることを目指しています。



おかそだちサーモン取扱い  
(原料ベース)

# 11.3トン

### 有機JAS認証平飼い放牧鶏卵を産直でお届け ～CO・OP産直黒富士農場オーガニックたまご



詳細はこちら



2024年6月から、日本でも数少ない有機JAS認証鶏卵を生産する「農業生産法人黒富士農場」を産直産地に指定しました。

採卵鶏での有機JAS取得は非常に難しく、鶏の食べるもの、飲むもの、暮らす場所、全てにおいて厳しい基準が設けられています。山梨県甲斐市の山懐、標高1,100mに位置する農場の豊かな自然環境のもと、平飼い放牧される鶏たちは鶏舎と放牧地を自由に行き来し、のびのびと過ごしています。



販売実績

# 9万5,102パック

※宅配で取り扱っています。



## 牛も人も幸せになれる。そんな牧場にしたい ～ 産直はなゆき農場有機牛 ～

コープデリグループは、産直はなゆき農場有機牛を通じて、持続可能な食料生産を目指すとともに、若手生産者を支援しています。有機JASの認定基準に沿った生産管理のためには、飼育条件、飼料、健康管理など高い基準が要求されます。この有機牛の生産へのチャレンジを、コープデリが子牛を買い取り、はなゆき農場に育成を預託することで支援しています。

埼玉県出身で牛とも動物とも関係のない生活を送っていましたが、大学で畜産学科に進み、そこから動物が好きになりました。就職時に、何か体を動かす仕事をと軽い気持ちで牛飼いになりました。最初はどの牛も同じに見えていたのに、今ではそれぞれの特徴が見えてきて面白いです。牛と会話はできませんが、牛の気持ちに寄り添えるようになった気がしています。

「はなゆき農場」の代表となって有機牛の生産に取り組む中で、将来はここが有機の牧場の拠点になるようにと考えています。牛は草を食べて育つので、草地の活性化や土も重要です。有機JAS認証では、一般的な飼養管理と分けて管理する点も多く、今は有機飼料を確保することにも力を注いでいます。

私たちが飼養している日本短角種という和牛は母牛の母乳で育てることが多いため、子牛が親牛の愛情を受けている期間も長いと私は感じています。そこで、はなゆき農場のロゴマークも、お母さんが優しく子どもを包み込むような温かいロゴマークにしました。

牛も人も幸せになれる。そんな牧場にしたい、それが私の願いです。



株式会社はなゆき農場 代表取締役  
中村 梢乃さん



農場のロゴマーク



子牛購入頭数(累計)

85頭

詳細はこちら

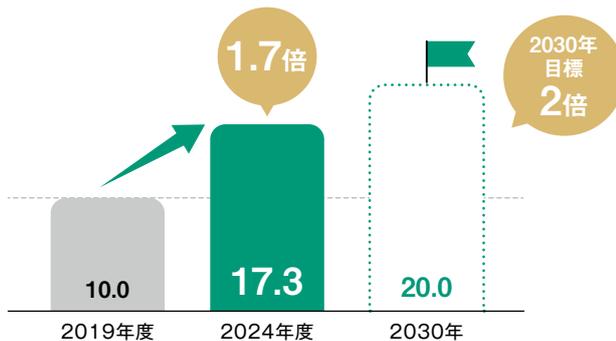


### 目標の到達状況

#### 2030年目標

エシカル消費対応商品の  
供給高構成比を  
2019年度比で**2倍**にします。

※単位：% (供給高構成比)



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和で健康な生活のために

詳細はこちら



## 「もったいない」を減らしたい ～食品ロス削減の取り組み

食べられるのに、食べることなく捨てられてしまう「食品ロス」。日本の食品ロスの量は年間472万トン\*と推計されています。コープデリグループでは、食品ロス削減につながる商品の販売や、事業での食品廃棄物の削減、余剰食品のフードバンクへの寄付などに取り組んでいます。また、「てまえどり」や季節商品の予約購入の呼びかけ、食品ロスに関する学習会の開催など、組合員とともに食品ロス削減に取り組んでいます。\*農林水産省「令和4年度推計」より



事業からのフードバンクへの寄付  
(物流予備品等)

58トン

## からだにも環境にもやさしいアップサイクルのスープ ～コープデリ・ワンディッシュスープ

さまざまな商品を製造する際に発生する、原料の未利用部分。たとえばパッケージサラダの製造過程で発生したキャベツの芯や、ジュース製造過程で発生したにんじんやりんごのパルプなどは、これまで廃棄されていました。コープデリミールキットの副菜として販売しているコープデリ・ワンディッシュシリーズのスープは、これらの未利用部分を活用し、滋味深い野菜のおいしさを引き出しました。

2023年6月のシリーズ販売開始から、季節感のあるスープなど楽しさを感じられるラインナップを拡充して、組合員から好評の声をいただいています。



販売実績



45万5,071パック

## 不揃いやキズがあっても大事にしたい ～規格外農産物の取り扱い

ちょっとしたキズ、サイズの違いで規格外となる野菜や天候被害を受けた果物は、商品として流通させることが難しく、多くの場合、加工用に回されたり廃棄されたりします。

コープデリグループは見た目は劣っても味には影響のない農産物を、理由を伝えて販売しています。育ちすぎたにんじんや軸の取れたしいたけ、表面にキズの付いたりんごでも生産者が大事に育てたおいしい商品です。また、畑で採れたトマトを選別せずにさまざまな形のものを丸ごとお届けするなど、産地と組合員のつながりの中で生まれた商品も、今ではコープの人気商品です。



天候被害果・規格外農産物供給高

56.9億円

Interview

## 生産から消費の流れ全体の食品ロス削減を目指して ～ 店舗への商品納品期限の緩和 ～

日本には、小売店への納品期限を賞味期限の3分の1までとする1/3ルールという商習慣があります。その納品期限を過ぎた商品は小売店に出荷できないため、食品ロス発生の一因といわれています。

コープデリグループの店舗では、2025年3月から、賞味期間120日以上の商品まで対象を拡大し、賞味期間の1/2まで受け入れることとしました。

※宅配は賞味期間にかかわらず、1/2ルールを基本としています。

食品ロス削減の視点から、以前より納品期限を延長して対応してきました。ただ、店舗では各お取引先との関係や、店舗での作業影響などがあり、賞味期間180日未満の商品を対象に1/3ルールの運用をしてきました。

しかしここに来て、食品ロスの問題とあわせて、物流の2024年問題というもう一つの課題も浮かび上がってきました。これは店舗でもなんとかしなくてはと、物流の担当、商品部の担当などとも協力して、納品期限の延長の実験を行いました。実験の結果では、納品期限の延長によりメーカーでの在庫管理が改善され、納品トラックの待機時間の大幅削減などが見られました。業務上問題のないことを確認しながら、実運用に向けて調整を行いました。

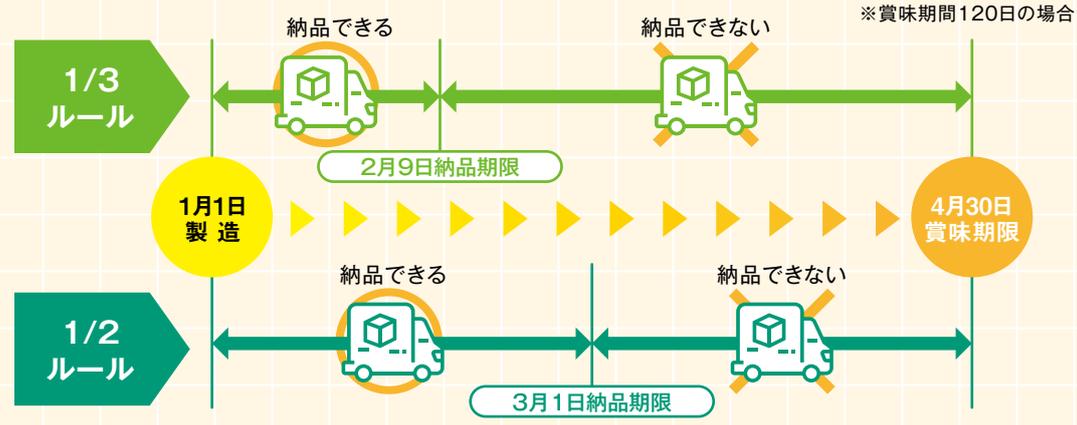
やはり大変だったのは、実際に商品を販売する際に日付を管理する店舗での作業調整です。店舗での作業負担が増えないよう、組合員にご迷惑がかからないように変更手続きを進めました。

さまざまな関係者の協力があり、賞味期間120日以上の商品での1/2ルールの運用を始めることができました。商品の販売に関わるサプライチェーン（生産から消費の流れ）全体での食品ロスの削減につながれば嬉しいです。



コープデリ連合会  
店舗グロサリー商品部  
グロサリーグループグループ長  
**土谷 誠さん**

### 納品期限の1/3 ▶▶▶ 1/2ルールへの見直し

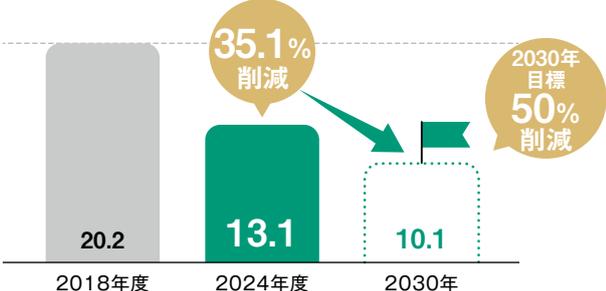


### 目標の到達状況

#### 2030年目標

事業における食品廃棄物を  
2018年度比**50%削減**します。

※単位: kg/千万円(店舗供給高当たりの最終廃棄量)



## プラスチック削減に向けた取り組み

### 使わない・減らすことから始めよう ～プラスチック使用量の削減

プラスチック製品は手軽で便利な生活必需品ですが、使用後にきちんと処理をしなければ、いずれ海に流れ着き「海洋プラスチック」の問題につながります。

また、処理についても、燃やすことで温室効果ガスを発生させる原因ともなります。

コープデリグループは容器包装プラスチックについて、薄肉化や使用量の削減、詰め替えによる本体容器の再利用の推進、リサイクル素材や再生可能資源の商品への活用などを進めています。

また、コープみらいでは1990年代からマイバッグ利用を呼びかけています。組合員が日常的にマイバッグを利用することでレジ袋の削減につながっています。



詳細はこちら



レジ袋辞退によるプラスチック削減量

# 573トン

(コープみらい店舗)

### 組合員の協力で回収したペットボトルを コープ商品の包材にリサイクル

ペットボトルは単一の素材でできているため、とても良質なリサイクル資源です。

組合員から回収したペットボトルの一部は、コープ商品のパッケージフィルムに生まれ変わって帰ってきています。再生品を活用した商品を組合員が利用することでリサイクルの循環が生まれます。

生協で回収したペットボトルを再生プラスチックの一部に使用した商品は2025年3月には152品まで拡大しています。

このフィルムが使用されるコープ商品のパッケージには、下記の表示を入れています。



生協で回収したPETボトルを、この袋の再生プラスチックの一部に使用しています。



詳細はこちら



組合員から回収したペットボトル

# 863トン

(コープみらい)

### 小さなキャップの大きな活躍 ～ペットボトルキャップのリサイクル

コープデリグループではリサイクルの取り組みのひとつとして、ペットボトルキャップを回収しています。ひとつひとつは小さなキャップですが、集まればさまざまなかたちで活躍します。

コープのお店では、原料にペットボトルキャップを97個分(重量からの換算値)使用することで石油由来のプラスチックを30%削減した買い物カゴを順次導入しています。また、ペットボトルキャップを263個分(重量からの換算値)使用したベビーカートも、一部の店舗に導入しています。

ペットボトルキャップのリサイクル資源としての売却益は、一部を世界の子どものワクチン支援に役立てています。寄付については37ページをご覧ください。



詳細はこちら



組合員から回収したペットボトルキャップ

# 1億2,011万個

※2g/個で重量より換算

## 環境にも配慮して安全にお届けしたい ～ リサイクル原料を使用した宅配用の保冷容器 ～

コープデリの宅配では、冷蔵品や冷凍品、農産品など品温管理が必要な商品をお届けしています。そのため毎週多くの発泡スチロール製の保冷容器を使用しています。この保冷容器は1回使い切りではなく、組合員にご協力いただき、きれいな状態で回収し、洗浄して再利用しています。

この保冷容器(フタと本体)を、リサイクル原料を50%使用したものに変更しました。リサイクル原料には、使用できなくなった保冷容器も使用し、保冷容器のリサイクルループを実現しています。

これまで、汚れや傷みのひどい保冷容器は、廃棄したあとに別の製品へとリサイクルしていましたが、もう一度保冷容器へと生まれ変わらせることはできないか、ずっと考えていました。今回、技術の進歩とリサイクル容器をつくるお取引先のご協力があり、念願だった循環型のリサイクルを実現することができました。

何度も試作を繰り返し、配合比率を検討しました。その結果、リサイクル原料による容器でも、強度や衛生面での問題をクリアし、組合員の皆さんに引き続き安全に、品質を保ってお届けできるようになりました。

多くの資材を使用する宅配の物流部門として、資源循環を一步でも進め、お取引先とともに次世代に笑顔が続く社会の一助になればと思っています。



協栄流通株式会社 物流部管理課  
大嶋行男さん



プラスチック使用量の削減見込み

# 約339トン/年

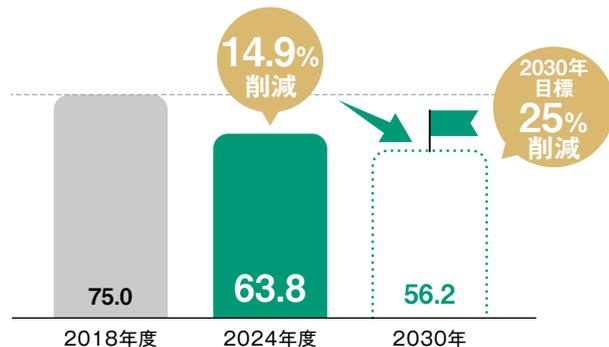
※2023年度の保冷容器導入個数実績から換算

### 目標の到達状況

#### 2030年目標

事業における容器包装  
プラスチック使用量を  
2018年度比**25%削減**  
します。

※単位: kg/千万円(供給高当たりの重量)



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和で健康な生活のために

## 02



# 安心して暮らせる 地域づくりのために



## よみきかせ絵本

千葉県館山市の子育て支援施設「館山市元気な広場」へのよみきかせ絵本の寄贈の様子。子どもたちを遊ばせに来ていた皆さんに絵本をご案内したところ、早速よみきかせを始めていました。

## 誰もが安心して暮らし続けられる 地域社会づくりに貢献します

- 1 暮らしと地域を支える生活インフラとしての機能を果たし続けられるよう、事業・商品・サービスの改善を続けます。
- 2 自治体や地域住民・諸団体と連携して、地域の人々が協力し、支えあえる取り組みや仕組みづくりを進めます。
- 3 天災などによる被災地の復興支援活動に取り組みます。災害に備え、防災・減災の取り組みや行政や地域の諸団体との連携を進めます。

## 親子で絵本を楽しむ時間はたからもの ～みんなのよみきかせ絵本大賞

「みんなのよみきかせ絵本大賞」は、親子にとっての宝物である絵本の読み聞かせ文化を次世代に伝えるための取り組みです。コープデリグループでは普段から配達でお世話になっている幼稚園・保育園にこの企画の趣旨を伝え、呼びかけを行いました。この企画に参加・応募いただいた幼稚園・保育園・児童養護施設などに、新刊絵本を20冊寄贈し、その中から人気の絵本を1冊投票していただきました。2025年10月に投票の結果を受けて人気の絵本1冊が決定し、表彰されます。この取り組みは、日本生協連から全国の生協に呼びかけがあり、コープみらいはその想いに賛同しました。1,330園・施設から応募があり、その中から抽選で996園・施設に絵本を寄贈しました。



寄贈先  
**996**園・施設  
(コープみらい)

## 新入学児童の交通安全と見守りのために ～ランドセルカバー寄贈

地域の道をトラックで配達しているコープみらいは、新入学の児童に安全に通学してもらうことを目的として、「交通安全ランドセルカバー」の寄贈を行っています。また、ランドセルカバーの寄贈ができない小学校に横断旗を寄贈しています。横断旗は685本を190校へ寄贈し、子どもたちの登下校時等に安全に横断歩道を渡れるよう、交通誘導を行う際に使用されます。



ランドセルカバー寄贈校数・枚数

**298**校 **2万3,808**枚



(コープみらい)

## 負けとられん!能登を笑顔に ～コープみらいの能登半島支援

2024年元日の「能登半島地震」に加え、9月の記録的豪雨により土砂崩れや河川の氾濫が起きるなど、能登半島では甚大な被害が続けて発生しました。

1月の地震、9月の豪雨災害に対してそれぞれ緊急募金を実施し、組合員より合計4億5千万円を超える募金が寄せられました。(募金について詳しくは41ページ)

コープみらいでは震災発生後から全国の生協とともに、被災地域の支援を実施しました。また、コープいしかわの業務支援のために4月末から1年間、3人の職員がコープいしかわに出向し、宅配センターで配達などの業務を担っています。

詳細はこちら



組合員さんに「会話をしてくれるだけで良いんだよ」と言われ、改めて会話の大切さに気付かされました。自分の存在や会話の時間が、少しでも被災された組合員さんのホッとできる瞬間になれたらうれしいです。



コープいしかわ  
のとセンターへ出向  
森川 淳さん

詳細はこちら



## 地域と人をつなぐ、みんなの応援団 ～コープみらいのブロック委員

コープみらいでは活動地域(千葉県、埼玉県、東京都)を22ブロックに分け組合員活動を行っています。組合員の立場で「地域と人をつなぐ、みんなの応援団」として約300人のブロック委員が、地域の組合員や地域の人々と一緒に、「みらいひろば」をはじめとした参加の場づくりや学びの場の提供、産地との交流などを行っています。ほかにも活動エリアの行政訪問を実施し地域との関係づくりを進めています。

2024年度はみらいひろば、子育てひろば、高齢者を含めた居場所づくりなどの企画を2,780回行い、22,394人の地域の方の参加がありました。



居場所づくり企画への参加者数



# 22,394人

(コープみらい)

## 健康寿命の延伸やフレイルの予防につなげる ～歩行年齢測定会の実施



「フレイル」とは、年齢とともに心身の活力が低下し、病気にならないまでも介護状態となるリスクが高くなった状態のことをいいます。交流の場づくりとくらしに関する情報提供を通じて、中高齢者の健康維持・フレイル予防の啓発につなげるために、歩行年齢測定会を地域で開催しています。お店やコープみらいフェスタのほか、包括連携協定をもとにした自治体でのイベント、各地域のコープみらいブロック委員会主催のイベントなどで開催しています。



測定会の開催、参加人数

# 43回 1,734人

(コープみらい)

## おうちに眠るはがきや切手で誰一人取り残さない社会へ ～はがき・切手回収キャンペーン

「はがき・切手回収キャンペーン」によりご家庭で使用されずに眠っているはがき・切手などを皆さんに寄付いただき、その換金で得られる資金をもとに「コープみらい 子ども・子育て支援基金」を設立しました。

2024年度の「はがき・切手回収キャンペーン」では、組合員からはがきや切手が入った封筒が24,643通寄せられました。寄せられた未使用切手はそのままでは換金が難しく、額面ごとに専用シートに貼る必要があります。この作業にのべ1,303人の組合員ボランティアが参加しました。



寄せられた封筒数



# 24,643通

(コープみらい)

詳細はこちら



## 物価高騰に困窮する世帯へ支援を ～お米寄贈の取り組み

多くの組合員利用による剰余金の社会への還元のために、2022年4月からお米寄贈を行っています。急激な物価高騰の社会情勢の変化の中で困難を強いられている世帯への支援として2024年度は1年を通し、千葉県・埼玉県・東京都内のフードバンクや生活困窮者への食料支援などを行っている団体へ42,600袋(約213トン)を寄贈しました。

また、2024年度はお米の寄贈とともに年3回お菓子の寄贈を行いました。困窮家庭では後回しになりがちなお菓子の寄贈により、子どもたちの笑顔につながりました。



寄贈したお米

5kg × 42,600袋

(コープみらい)

## 消費者の意見を取り入れたお店づくり ～買い物カゴ投票

消費者とお店をつなぐ新たなナッジ型コミュニケーションとして、世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)が考案した「買い物カゴ投票」の実証実験をコープみらい コープ葛飾白鳥店で行いました。この取り組みはコープみらいが検討するサステナブルを推進する案について組合員に問いかけ、買い物後にカゴを返却する際、「YES」か「NO」で回答・投票してもらった仕組みです。

お肉のノントレーの拡大、環境配慮商品のコーナー化、店内の一部照明を消した省エネ策などについて投票を行い、その結果を受けて施策を実行しました。コープデリ【公式】サステナビリティInstagramで投票を紹介した動画は再生回数530万回を超え、大きな反響を呼びました。



WWFジャパン

動画再生回数

530万回

詳細はこちら



詳細はこちら



## 組合員の助け合いの気持ちでサポート ～返済不要の奨学金制度

日本における「子どもの貧困率」は大きな社会問題となっており、中でもひとり親世帯の貧困率は約半分と言われていています。コープみらい社会活動財団は、コープみらいの組合員で、ひとり親世帯(両親がいない世帯も)の高校生を対象とした返済不要の奨学金給付事業を実施しています。

この奨学金給付事業は、コープみらいの組合員の「奨学金応援サポーター」の皆さんからの募金で支えられており、組合員同士の助け合いとして行っています。奨学生と奨学金応援サポーターをつなぐ冊子を発行し、互いの声を届けています。

奨学生の人数

1,724人

※2025年5月時点  
3学年の合計

奨学金応援サポーター人数

30,442人

(2025年5月時点)

(コープみらい)

## 03



# 人にやさしく誇りが持てる 組織を目指して



1人1人の人権・多様性が尊重され、  
誰もが安心して働ける職場づくりを進めます

1 多様性が尊重され、それぞれの個性や能力に応じて活躍できる職場をつくります。

2 ジェンダー平等が実現され、性差に関係なく職員が活躍し役割発揮できる職場をつくります。

## 支援先での配達

令和6年能登半島地震で被害を受けたコープいしかわを支援するために、自ら志願して手を挙げた職員の中から3人が、1年間コープいしかわに出向しました。

生協同士だからこそ、働きながら被災地の支援を行い、職員の成長につながっています。



## 将来のキャリアビジョンの明確化につなげる ～生協内インターンシップ

若手職員が将来の働く姿を具体的にイメージし目標に向かう道筋を描けるように、生協内インターンシップを実施しています。他部署の仕事を体験・理解し、やりがいを体感することで、職員一人ひとりが自律的に将来のキャリアを考えることができる環境づくりを進めています。

参加した職員からは「業務の多様性を実感し、視野が広がった」「将来のキャリアビジョンが明確になった」などの声があがっています。



インターンシップ実施人数  
33部署

131人

## 家族の働く姿にふれて絆を深める ～子ども参観日

「子ども参観日」は、家族の働いている姿を見て仕事を体感することで、生協や仕事への理解を深め、コープのファンになってもらうことを目的に開催しています。2024年度からは職員の孫の参加も開始しました。職員自身にとっても、家族との絆を深めるとともに、仕事への誇りをさらに感じ、モチベーションを上げる良い機会となっています。



### 参加したお子さんからの声

ママの働く姿が見られて嬉しかったです。  
ママカッコ良かった！

父が色々な人から頼りにされ、  
信用されているのを見てもカッコイイ  
なあと思いました。

おばあちゃんは楽しそうに仕事  
をしていました。これからは体  
気をつけて仕事して欲しいです。

## 日々の仕事を通してはぐくむ、イイネッ!! ～エピソードブック

コープデリグループには、一人ひとりが前向きに日々の仕事に取り組むための行動指針があります。そして、行動指針に沿った職場の仲間のすばらしい行動に職員同士で「イイネ！カード」を贈り合っています。

また、日々の仕事の具体的な事例を通じて、理念、ビジョン、行動指針を具体的に理解するためのツールとして、それらの行動に伴うエピソードを集めたエピソードブックを2015年度から発行しています。

組合員とのエピソード、職員同士の絆、喜ばれた事例に加え、失敗を乗り越えた事例などを共有することで人に優しく、誇りが持てる組織をはぐくみます。



## 週に1日を他部署で働きキャリアを描く ～生協内クロスワークプログラム

キャリア開発の新しい取り組みとして、生協内クロスワークプログラムを2024年度から開始しました。このプログラムは、約10カ月の期間、現在従事している仕事を週4日行いながら、週1日は他部署に勤務し、新たな仕事に取り組むというものです。生協内での「兼業」を通じて新たなスキルの獲得やさまざまな職員とのつながりづくり、自身の将来のキャリアを主体的に描いていくことを目的としています。



### 参加者の声

10か月を終えた今はやりきった気持ちでいっぱいです。今後の働き方を考えるよい機会になりました。

貴重な経験ができました。クロスワークで得た経験は今後の仕事で必ずプラスになると考えます。



## さまざまな気づきにつながる育児休職を ～男性職員の育児休職取得

男性職員の育児休職取得率の向上に向け、就労環境の整備、育児支援関連制度の周知および取得推進に取り組んでいます。同時期に両親で育児をスタートし、育児に関わる経験や喜びなどを共有することを組織全体で後押しし、男女ともに、子育てをしながら、イキイキと働き続けられる職場運営を促進しています。休職期間3カ月以上の男性職員も約半数となりました。

「育児」を経験することから得られた気づきは、職員自身だけでなく、組合員の気持ちに寄り添い、地域社会の期待に応え、貢献することへのモチベーションにもつながっています。



男性職員の育児休職取得率

94.6%

(コープみらい)

## メリハリのある勤務でワーク・ライフ・バランスを推進 ～「4日勤務・週休3日」の就労制度を新設導入

コープみらいでは、宅配センターの働き方改革と、配達効率アップによる生産性向上を目的に「4日勤務・週休3日」の就労制度を新設導入しました。

コープみらい コープデリ北総センターで先行導入し、遠方エリアの配達業務を担う地域担当者6人を対象として進めています。



週5日から4日勤務に変更したことで1日あたりの配達件数は増えましたが、予想していたよりは大変ではなかったです。コース編成をしたことで配達先もまとまり、以前より配送効率が良くなりました。

休日は、土日はしっかり体を休めて、平日休みの日に買い物に出かけています。飲食店なども平日は空いているので充実した休日を過ごせるようになっています。



コープみらい コープデリ北総センター  
地域担当

清水 佑人さん

## 女性活躍の場を広げ、長く働く組織風土をつくる ～Womenいきいきプロジェクト

宅配や店舗といった同じ立場で働く女性職員同士が、将来への不安や女性特有の悩みなどを話し合える交流会を開催しています。当日は、心理的安全性を確保し、安心して話し合えることを大切にして、参加者からは、じっくりと時間をかけて話げできたこと、たくさんの思いや気づきを共有できたことへの喜びの声があげられました。

宅配の交流会では、生協内クロスワークプログラム、4日勤務・週休3日、複合職(2種の業務を組み合わせた働き方)などさまざまな新しい働き方の報告もあり、キャリアを考えるきっかけにもつながっています。



参加した女性職員

のべ**94**人

(コープみらい)

## 多様性が尊重され、個性や能力に応じて活躍できる職場づくり ～埼玉県障害者雇用優良事業所認証

コープみらいは、継続的に障がい者の法定雇用率を達成していることなどを評価され、障がい者を率先して雇用し、その能力の活用に積極的な事業所として「埼玉県障害者雇用優良事業所」に認証されました。

障がい者雇用をさらに推進し、多様性が尊重され、それぞれの個性や能力に応じて活躍できる職場づくりをこれからも進め、ビジョン2035に掲げる「ともに」の力で、誰ひとり取り残さない社会づくりを進めます。



埼玉県障害者雇用優良事業所

障がい者雇用人数

**185**人

(コープみらい)

## 日本の風景や文化を楽しみながら交流 ～外国人技能実習生レクリエーションツアー

コープみらいで働く外国人技能実習生同士のコミュニケーションを深めるとともに、日本の風景や文化を楽しみながら体験してもらいたいとの思いからレクリエーションツアーを開催しています。

2024年度は「山梨県バスツアー」を実施し、日本ならではの観光名所を楽しむことができました。このツアーはコープみらいの人事で働くベトナム出身の職員が、実習生のために考えて企画しました。



### 参加者の声

ツアーを通じて、多くの友人とつながり、会社の人と楽しく交流することができました。

他の実習生やスタッフの方々との交流が深まり、より親しくなることができました。

新しい文化・人々・日本の風景についてさらに学ぶことができました。とても良い会社を選んだと思いました。

職場の皆さんは毎日私たちのことを気にかけて、声をかけてくれています。実習生のことをこれほど気にかけて、常に優しく熱心な企業を初めて見ました。

## 04



## 100年後の地球のために



## コープみらい秩父の森

埼玉県秩父市にある「コープみらい秩父の森」は、「いのち育む四季彩の森」として、環境保全活動をすすめ、クヌギやコナラ、カエデなど約1,000本を植林し育てています。「草木を利用した物作り」や「生きもの探し」など、四季折々の自然を体験しながら、環境を考え生物多様性を学んでいます。

## 再生可能エネルギーの利用・普及を進め、地球温暖化対策を進めます

**1** 事業から排出される温室効果ガスを、2030年に2013年度比60%削減します。  
2050年には温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します。

**2** 再生可能エネルギーによる発電を増やし、調達電気の排出係数を低減します。

## 100年後の地球のためにともに学ぶ ～コープデリのエコ活

[詳細はこちら](#)


この地球を次世代へつなげるためには、現在起きていることを知り、今何をすべきかを考えることがとても重要です。

「温室効果ガス(特にCO<sub>2</sub>)」「使い捨てプラスチック」「食品ロス」の3つの問題をテーマとした環境の取り組み「コープデリのエコ活」をはじめとして、環境について学び実践するための学習会や体験の機会をさまざまな形で提供しています。特に、子どもたちが楽しみながら身近な環境を知り、学び、そしてこれからの地球について考えるきっかけとなるように、コープみらいの森での自然体験を通じた学びや、田んぼのがっこうなどの農業体験を通して、地域の中で体験できる企画を大切にしています。



コープみらい八街の森



## 再生可能エネルギーをコープの施設でつくる ～太陽光発電設備の設置

コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱の1つとして、再生可能エネルギーの創出と使用による電気由来のCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。宅配センターや店舗、物流センターなどの屋上への太陽光発電設備の設置を進め、発電された電気の一部をコープデリグループの施設で使用しています。また、2025年度は新たな試みとして物流施設の駐車場へソーラーカーポートの設置を進めています。

2024年度は11施設に新たに設置し、発電能力(設備容量)が1,080kW増えました。



コープ坂戸薬師町店

太陽光発電能力(設備容量)

11,675kW

## 2030年温室効果ガス削減計画の具体化 ～目標達成のためのロードマップを策定

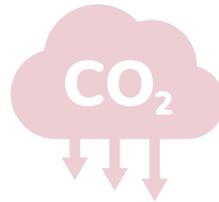
コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標(2013年度比60%削減)の達成に向け2023年度から2030年度までの期間に重点的に取り組む施策を計画化したロードマップを策定しました。

目標達成に向けて「電気使用量の削減」「電動化を主とした車両燃料の低炭素化」「再生可能エネルギーの創出と使用の拡大」を施策の3つの柱に設定し、推進しています。

|          | 2024年度実績                                   | 2025年度計画                    |
|----------|--|-----------------------------|
| 電気使用量の削減 | ● 宅配センター統廃合による効率化<br>● 照明器具のLED化 ● 自然冷媒の導入 | ● 冷蔵・冷凍・生産加工機器の更新 ● 自然冷媒の導入 |
| 車両燃料低炭素化 | ● 車両EV化56台、車両HV化22台                        | ● 車両EV化46台、車両HV化5台          |
| 再エネ創出・使用 | ● 自家消費太陽光発電11施設の設置                         | ● 自家消費太陽光発電2施設の設置           |

## お店のエネルギーをよりいっそうエコに ～環境に配慮したお店づくり

コープデリグループでは、新店の開店や店舗の改装といったタイミングで、よりいっそう環境に配慮したお店づくりを進めています。たとえば、エネルギー効率の高い自然冷媒を使った食品ショーケースの導入では、温暖化への影響をおさえながら、一般的な冷媒と比べて、電気使用量を年間約20%削減できます。また、食品ショーケースに扉を設置したり、照明のLED化、反射率の良い床材の使用による照明の効率化などに取り組んでいます。



自然冷媒導入店舗数

9店舗

## 食品廃棄物から電気をつくる ～バイオガス発電によるリサイクル

コープみらいでは店舗の食品廃棄物のリサイクル率は2024年度94.5%と、食品リサイクル法に基づく再生利用等の実施率目標65%(食品小売業)を大きく超えています。

リサイクル方法のひとつ「バイオガス発電」では、食品廃棄物を微生物の働きで発酵させ、発生したメタンガスを発電用の燃料として活用します。発電された電気は、全国の生協の電力事業を担う日本生活協同組合連合会の子会社(株)地球クラブを通じて、コープデリグループの店舗をはじめとした各施設や、コープデリでんき「再生可能エネルギー100%メニュー」の電気として契約した組合員のご家庭に届けられています。



食品リサイクル率

94.5%

(コープみらい店舗)



## 温室効果ガスの削減に向けて ～ 車両燃料の低炭素化(EV導入)～

コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱の1つとして、電動化を主とした車両燃料の低炭素化を掲げています。

宅配のトラックをはじめ合計8,000台以上の車両を運行していますが、2024年度はグループ全体で56台の電気自動車(EV)の導入を進めました。おもに営業活動等で使用する軽自動車の入れ替えを進めながら、EVトラックの導入も順次開始しています。

コープデリグループとしてCO<sub>2</sub>削減の一環として、EV導入を進めています。すでにいばらきコープ、とちぎコープでEVトラックを導入しています。コープみらいでも普通免許で乗れるEVトラックが発売になったことから、導入に踏み切りました。

現在、宅配センターで働く職員の多くは普通免許でトラックを運転しています。そこで、EVでかつ普通免許でも運転できるトラックを探していました。まずは実験導入となりますが、今回導入してみた結果を受けて、今後の拡大についても検討していきます。



コープデリ生活協同組合連合会  
宅配運営企画部  
ウイークリーコープ課 企画担当  
横川幸夫さん



EV導入台数  
(コープデリグループ累計)

# 148台

### 職員の声

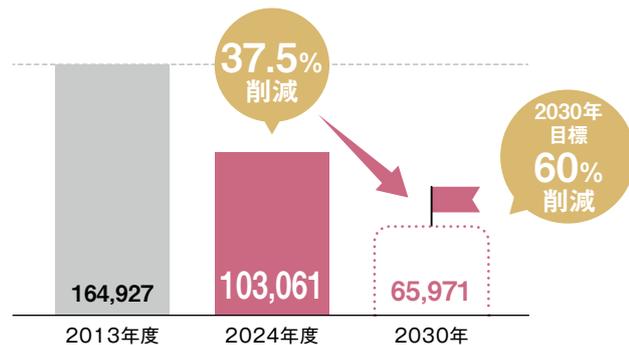
運転してみても静かなのにびっくりしました。

EVトラックなんですよと組合員さんに伝えると、環境にも優しくていいわねと言われ会話が弾みます。

### 目標の到達状況

#### 2030年目標

事業から排出される  
温室効果ガスを  
2013年度比**60%削減**  
します。 ※単位:t-CO<sub>2</sub>(CO<sub>2</sub>排出量)



## 01

持続可能な生産と消費のために

## 02

安心して暮らせる地域づくりのために

## 03

人によさしく誇りが持てる組織を目指して

## 04

100年後の地球のために

## 05

世界中の人々の平和で健康な生活のために

# 05



## 世界中の人々の平和で 健康な生活のために



世界から飢餓や貧困をなくし、  
世界平和を実現できる取り組みを進めます

- 1 飢餓や貧困をなくし、世界の子どもたちを支援する活動を進めます。
- 2 核兵器廃絶、被爆・戦争体験継承の取り組みなど、平和な社会を目指す活動を進めます。

### ハッピーミルクプロジェクト

ハッピーミルクプロジェクトで支援しているコートジボワール共和国の子どもたち。2023年にコープデリグループの役職員が現地視察に訪れました。

## ペットボトルキャップや不要な衣類で支援 ～世界の子どもにワクチンを

子どもの命を脅かす感染症は、開発途上国ではいまだに猛威をふるい、ワクチンがあれば助かる小さな命が1日に4,000人も失われています。コープデリグループは組合員から回収したペットボトルキャップをリサイクル資源として得た売却益や、株式会社スクロールとともに実施している衣料品回収プロジェクトによる収益の一部を、認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)に寄付しています。

2024年度のペットボトルキャップ回収による寄付金額は240万2,300円、衣料品回収プロジェクトによる寄付金額は248万1,500円でした。これはポリオワクチンに換算すると24万4,190人分となります。

ペットボトルキャップ回収量については22ページをご覧ください。また、衣料品回収プロジェクトではJCVのほかに、認定NPO法人Learning for Allへ244万3,000円を寄付しています。



©JCV

寄付によってポリオワクチンを接種できる子どもの人数

(ポリオワクチン1本20円で換算)

# 24万4,190人



詳細はこちら



## コープの牛乳で子どもたちを笑顔に ～ハッピーミルクプロジェクト

コープデリグループは、2008年からコープの牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、アフリカの子どもたちの栄養改善を応援する「ハッピーミルクプロジェクト」に取り組んでいます。2020年度からは、西アフリカのコートジボワール共和国を支援しています。

栄養不良などにより、命の危機にさらされている子どもたちを守るために、栄養改善の拠点をつくり、母親たちへの栄養・育児の知識を広げる等、子どもたちの栄養改善を進めています。2024年度の寄付金は2,201万5,567円となりました。



寄付額累計

# 3億938万7,163円



## Message

ハッピーミルクプロジェクトによって、コートジボワールの母親たちの栄養知識の向上と子どもたちの栄養改善につながっていることに感謝申し上げます。現地の母親たちの意識が変わりつつあるとの報告も届いています。ハッピーミルクプロジェクトを通じて日本とコートジボワールの関係がより良くなることを願っています。

コートジボワール共和国

イポ・ボリエ デジレ ウルフラン 駐日大使





## 身近な地域に残る戦跡から学ぶ ～戦跡巡り

戦争の爪痕や記憶は、身近な地域にも残っています。東京下町に数多く残る東京大空襲の戦跡、各地の防空壕や軍需工場跡など、それぞれの地域には何らかの戦争の記憶が残ります。地域の戦争の悲惨な歴史やその影響を直接体験することで「知り、学び、伝える」機会とし、次世代に戦争の歴史と平和の大切さを継承するためにも、地域の組合員活動で戦跡巡りに取り組んでいます。



## 「知り、学び、伝える」ことを大切に ～平和の旅

詳細はこちら



「くらし」の基本は平和であることです。平和の大切さを次世代に継承するために「知り、学び、伝える」ことを大切に、組合員どうしや親子で「平和」について考える「オキナワ・ヒロシマ・ナガサキ平和の旅」を実施しています。

平和の旅の参加者は、現地での核兵器や戦争の悲惨な事実を知り、学び、その学びを学習会や交流会を通じて、さまざまな地域で多くの方に平和の大切さを伝えていきます。また、若い世代がより参加しやすくするために、組合員に向けて「平和の旅募金」を呼びかけ、「オキナワ・ヒロシマ・ナガサキ平和の旅」の費用の一部として活用しています。

### 「ヒロシマ平和の旅」参加者の声（一部を修正しています）

たくさんの方の尊い命と日常が奪われた悲惨な出来事ですが、だからこそ継承し、二度と繰り返すことなく、そして核兵器廃絶を実現するために、伝わりやすい言葉で、自分なりの言葉で伝えることが大切だと思いました。継承することを遠慮している場合は無いと強く感じました。（大学生）

ぼくは戦争や原爆ドームなどは写真や動画でしか見たことなかったけど、実際にリアルで見たら、原爆ドームなどオーラがすごかったです。（小学4年生）

この3日間、たくさんの方の原爆の話を知りました。これからは私たちが知った分、また伝承し、つなげていかねばと思います。（中学生）





## 一人ひとりが平和について考える日に ～コープみらいピースアクション

ピースアクションは、戦争・被爆体験の継承や、世界のさまざまな戦争や紛争、基地問題、憲法など、多角的なテーマで平和を考える取り組みです。

3月1日(土)、平和の大切さを次世代に継承し、「知り、学び、伝える」コープみらいピースアクションを開催し、のべ497人が参加しました。開演冒頭では、日本被団協の田中熙巳代表委員からのサプライズビデオメッセージがあり、ピースプログラムでは俳優の紺野美沙子さんによる朗読が行われました。若者で構成される団体による平和活動の報告や、大学生や高校生の報告や展示なども行われ、次世代がしっかりと平和の大切さを受け止め、伝承する役割を担っていることを多くの参加者へ伝えました。また、平和を願う地域の組合員や団体の展示を通じて、平和の大切さについて学ぶ機会とし、コープみらいの平和への取り組みを紹介しました。

### 「ピースアクション」参加者の声

会場へ入るとたくさんの展示物があり、みなさんの平和への熱い思いが伝わってきました。今回参加できたことで改めて平和の大切さを感じる機会を与えて頂き感謝しています。

私自身は祖父が実際に体験したということもあって東京大空襲に関心がありました。被爆・戦後80年の今だからこそ、この内容の企画ができてよかったと思います。

若い方の取り組みも初めて知り応援したくなりました。高校生たちの活動発表には今後の平和活動の継承に希望を持ちました。



### 日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協) 田中熙巳 代表委員からのメッセージ

日本被団協は2024年にノーベル平和賞を受賞しました。もう来年では遅い、(被爆・戦後)80年の担い手になってもらおう、やがて被爆者はいなくなるだろうけれども、若い人たちが被爆者の草の根の運動を受け継いでいかなきゃいけない、そのために頑張してほしいということで選ばれたのだと思います。今の若い人たちはパソコンやスマホなどに長けているので、みなさんができる手法を使って力強い運動をしていくことで、何か大きな動きができてくると思います。

生協は世界各地にあります。世界の生協とも連携して核廃絶に向けた平和活動のメッセージを送れるといいですね。生協はお互いに話し合う場がちゃんとしている。お互いに顔を見ながら話をするのは大事だと思います。組合員はそういったことができる、生協はそういったことができる組織なので、会話の場を広げて生協の活動を頑張してほしいと思います。



田中 熙巳 代表委員

## ■ 認証マーク付商品供給高(コープデリグループ)

| 認証・認定マーク | 認証・認定内容  | 供給高(億円) | 認証・認定マーク        | 認証・認定内容   | 供給高(億円) |
|----------|--|---------|-----------------|---|---------|
| 有機JAS    | 一定の基準で農薬や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品です。              | 41.1    | レインフォレスト・アライアンス | 人と自然にとってより良い未来を推進する方法で栽培されたことを意味しています。ra.org/ja                             | 20.0    |
| MSC      | 水産の資源を枯渇させないよう、持続可能で適切に管理された漁業でとられた水産製品です。       | 63.7    | フェアトレード         | 発展途上国の農産物や製品などを不当に安く買うのではなく、農家の生活が成り立つよう考慮した「フェア(公正)な価格」で継続的に輸入し消費する取り組みです。 | 0.8     |
| ASC      | 環境と社会に配慮した責任ある養殖場で生産された水産製品です。                   |         | RSPO            | 「持続可能なパーム油」の生産・製造・流通・消費を応援する商品です。   | 23.8    |
| アラスカのRFM | アラスカの責任ある漁業管理のもと持続可能な漁業で漁獲された水産物です。              |         | FSC             | 責任ある森林管理をしている林業者を応援し、世界の森林保全貢献につながる木材製品です。                                  | 401.8   |
| BAP      | 責任ある養殖管理の下で育てられた水産物です。                           |         | エコマーク           | 生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です。                                      | 333.5   |
| MEL      | 水産資源の継続的な利用を図るため、資源管理と生態系の保全に取り組む日本の生産者を認証しています。 |         |                 |   |         |

## ■ 飼料用米の取り組み概況(コープデリグループ)

|    | 供給高(億円) | 飼料用米重量(トン) | 田んぼ面積(ha) |
|----|---------|------------|-----------|
| 豚肉 | 112.8   | 4,272      | 712       |
| 牛肉 | 1.2     | 116        | 19        |
| 鶏肉 | 2.5     | 73         | 12        |
| 鶏卵 | 17.7    | 1,024      | 171       |
| 合計 | 134.2   | 5,485      | 914       |

## ■ 産直の概況(コープデリグループ)

|     | 産地・生産者団体数 | 産直供給高(億円) | 産直構成比(%) |
|-----|-----------|-----------|----------|
| 農産物 | 445産地     | 311.6     | 50.3     |
| 畜産  | 34団体      | 218.9     | 61.7     |
| 米   | 25団体      | 151.1     | 71.4     |
| 卵   | 37養鶏場     | 77.3      | 84.4     |
| 牛乳  | 5産地       | 4.4       | 2.3      |
| 水産  | 14産地      | 20.0      | 4.7      |

## ■ 規格外・余剰農産物供給高(コープデリグループ)

| 商品名                      | 内容   | 供給高(億円) |
|--------------------------|--|---------|
| 規格外<br>(ふぞろい・ハネッコ・天候被害果) | 形の悪い、大きさが規格外、少しキズがついているなど、食べるのには問題ない農産物を農家も組合員も笑顔になれるちょっとだけお得な価格で販売しています。            | 56      |
| もったいないセット                | 宅配では不良などに備えて、予備品として産地・取引先から多めに農産物を入荷しています。使わず余った農産物を無駄なく召し上がっていただくために、セットにして販売しています。 | 0.2     |
| 産地支援セット                  | 異常気象による天候被害果や豊作で余ってしまった野菜をセットでお届け。ちょっとお買い得で、農家も組合員もお互い笑顔になれる野菜セットです。                 | 0.7     |

## ■ コープみらいのリサイクル資源回収量

| 回収品目    | 宅配のみ            |            | 宅配・店舗   |                   |         |         | 店舗のみ    |
|---------|-----------------|------------|---------|-------------------|---------|---------|---------|
|         | 商品とカタログのお届け用ポリ袋 | 商品カタログ・チラシ | 飲料用紙パック | ペットボトル・ペットボトルキャップ | 食品トレイ   | たまごパック  | アルミ缶    |
| 回収量(kg) | 392,481         | 25,808,526 | 700,856 | 1,032,265         | 439,336 | 158,590 | 160,243 |
| 前年比(%)  | 98.8            | 95.5       | 96.8    | 102.1             | 102.9   | 99.7    | 101.4   |

## ■ コープみらいの「組合員の声」受付件数

| 受付方法         | 声の経路                    | 件数     | 前年比 (%) |
|--------------|-------------------------|--------|---------|
| こえのポスト(宅配)   | 組合員が書いたカードで寄せられる声       | 20,129 | 191.8   |
| こえのポスト(店舗)   |                         | 779    | 84.1    |
| 観たこと聴いたことカード | 職員が気づいたことを書いたカードで寄せられる声 | 45,930 | 79.5    |
| お問合せ案内センター   | 電話・メールで寄せられた声           | 20,904 | 70.6    |
| 商品お申し出受付カード  | 商品に対するお申し出・ご指摘          | 6,956  | 88.6    |
| 合計           |                         | 94,698 | 88.8    |

## ■ 商品検査実績(コープデリグループ)

(検体数)

|                              | 日本生協連<br>商品検査センター | コープデリ<br>商品検査センター | 合計     |        |
|------------------------------|-------------------|-------------------|--------|--------|
| 微生物や<br>食品中に残存する<br>化学物質等の検査 | 微生物               | 1,963             | 28,445 | 30,408 |
|                              | 残留農薬              | 1,780             | 753    | 2,533  |
|                              | 残留動物用医薬品          | 268               | 72     | 340    |
|                              | 食品添加物             | 206               | 113    | 319    |
|                              | カビ毒               | 3                 | 100    | 103    |
|                              | ヒスタミン             | 24                | 468    | 492    |
|                              | 放射性物質             | 310               | 523    | 833    |
| 食品の品質や<br>規格成分の検査            | 栄養成分・品質           | 1,630             | 1,037  | 2,667  |
|                              | 内容量               | 129               | 0      | 129    |
|                              | 官能                | 2,605             | 6      | 2,611  |
|                              | 品温                | 0                 | 174    | 174    |
| 食品表示を確認する検査                  | 特定原材料             | 1,837             | 410    | 2,247  |
|                              | 遺伝子組換え            | 18                | 44     | 62     |
|                              | 品種・肉種判別           | 115               | 131    | 246    |
|                              | 産地判別              | 0                 | 8      | 8      |
| 施設衛生検査                       | 0                 | 173               | 173    |        |
| その他(上記以外)                    | 320               | 320               | 640    |        |
| 合計                           | 11,208            | 32,777            | 43,985 |        |

検査内容が重複しないよう、日本生協連の商品検査センターと連携して取り組んでいます

## ■ コープみらいの募金・寄付の状況

| 募金・寄付・取り組み名   | 寄付先、寄付金の活用内容   | 募金(寄付)金額(円) |
|---|--|-------------|
| ユニセフ募金  | 日本ユニセフ協会:ユニセフが約190の国と地域で実施する子どもたちの栄養の改善、安全な飲み水や衛生施設の普及、初等教育の普及など   | 41,557,995  |
| 令和6年能登半島地震緊急支援募金<br>(2024年1月8日~3月31日)               | 石川県・富山県・新潟県など被災地域の自治体を通じて被災された方々への義援金、被災地や被災地生協の復旧活動費用などの復旧支援  | 326,136,668 |
| 台湾東部沖地震緊急支援募金<br>(2024年4月15日~5月10日)                 | 日本赤十字社:台湾赤十字組織が行う救援・復興支援活動および防災・減災事業等  | 25,071,020  |
| 令和6年能登半島地震及び<br>能登豪雨災害募金<br>(2024年9月27日~2025年1月12日) | 石川県内の被災地域の自治体を通じた被災された方々への義援金のほか、被災地の復旧活動費用に活用   | 129,415,465 |
| ふくしま復興応援募金  | ●福島県「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」:震災遺児・孤児への支援や子どものための事業等<br>●福島県「災害復興寄附金」:福島県が行う復旧復興の事業   | 16,432,700  |
| 平和の旅募金  | コープみらいが行う組合員のオキナワ・ヒロシマ・ナガサキ平和の旅に活用   | 1,796,828   |
| 子ども・子育て支援基金<br>(はがき・切手回収キャンペーン)                     | 社会福祉法人中央共同募金会:「コープみらい&中央共同募金会」として東京、埼玉、千葉で貧困、格差、いじめ、DV、虐待など、困難な状態にある子どもたちの支援活動をしている団体の助成<br>認定特定非営利活動法人 ハンガー・フリー・ワールド:バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ウガンダの子どもの栄養改善や住民たちが自分の力で食べ物を得られるしくみ・地域づくりなどに活用<br>認定特定非営利活動法人アジア・コミュニティ・センター21(ACC21):フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援プロジェクトに活用 | 20,701,215  |

## サステナビリティデータ

### 寄付金付き商品等の状況(コープデリグループ)

| 募金・寄付・取り組み名                                   | 寄付先                              | 寄付金額(円)    | 寄付金の活用内容  |
|---|----------------------------------|------------|---|
| ハッピーミルクプロジェクト*                                | 日本ユニセフ協会                         | 22,015,567 | 「ユニセフ・コートジボワール共和国指定募金」<br>「ユニセフ・アフリカ栄養危機緊急募金」                   |
| 佐渡トキ応援お米プロジェクト                                | 佐渡市トキ環境整備基金                      | 3,450,558  | 佐渡市が行う「生きものを育む環境づくり」や「環境にやさしい佐渡米づくり」                            |
| 美ら島応援もずくプロジェクト                                | 伊平屋村美ら島応援基金                      | 2,163,698  | 島の海岸清掃など自然環境の保護や、もずく産業の活性化                                      |
| grow(グロー)                                     | grow基金                           | 1,256,496  | メキシコの農園労働者への医療サービス提供や子どもたちの教育などの支援                              |
| 北カリマンタン<br>マングローブ基金                           | 北カリマンタンマングローブ基金                  | 483,921    | エビの産地であるインドネシア北カリマンタン州の環境と未来の水産資源を守るマングローブ植樹活動                  |
| インドネシア・エビ養殖業<br>改善プロジェクト                      | WWFジャパン                          | 882,258    | (WWFジャパン、WWFインドネシアとBOMAR社の協働による)環境と社会に配慮した責任あるエビ養殖業への転換の取り組みを支援 |
| コアノスマイルスクール<br>プロジェクト                         | 日本ユニセフ協会                         | 1,113,032  | アンゴラ共和国の子どもたちが楽しく学べる環境づくり(学校のトイレ・水の整備、教師の育成)                    |
| CO-OP×レッドカップ<br>キャンペーン<br>(2024年10月1日~11月10日) | 国連WFP協会                          | 846,002    | ミャンマー連邦共和国の子どもたちに学校給食を届ける取り組み                                   |
| 洗剤環境寄付キャンペーン                                  | WWFジャパン                          | 435,623    | インドネシア各地の小規模パーム農園の持続可能な生産などを推進するプロジェクトを支援                       |
| パラノルディックスキー<br>応援キャンペーン                       | 日本障害者スキー連盟                       | 235,012    | 日本障害者スキー連盟ノルディックスキーチームの次世代を担うジュニアチーム(10~20代)の合宿・国際大会遠征支援など      |
| スマイルグリーンプロジェクト                                | WWFジャパン                          | 683,850    | ブラジルのアトランティックフォレストで実施する、森林再生などの活動を応援                            |
| ピンクリボン運動<br>(2024年9月1日~10月20日)                | 認定NPO法人J.POSH<br>(日本乳がんピンクリボン運動) | 222,712    | 乳がんに対する啓発活動や患者や家族の支援  |

※この寄付金額には組合員からの募金を含みます

### コープみらいの安心して暮らせる地域づくりの取り組み

| 項目                     | 2024年度実績  |
|------------------------|---|
| 米寄贈                    | 5kg米42,600袋、約213トンのお米を千葉、埼玉、東京のフードバンクや社会福祉協議会など61団体に寄贈(P27参照)   |
| フードバンクへの寄付             | 物流段階で発生した販売できない商品をフードバンクに寄贈。農産25トン、米9トン、おむつ2,587パック   |
| フードドライブの取り組み           | フードドライブ専用食品寄贈ボックス常設施設数61カ所、寄付いただいた食品20.2トン  |
| みらいひろば                 | 組合員や地域の方など誰もが参加できる地域の居場所として、「みらいひろば」を毎月各地域で開催。開催回数2,414回、のべ参加人数18,967人(P26参照)                               |
| 子育てひろば・<br>地域子育て支援拠点事業 | 子育て中の親子が知り合い、交流できる場づくりとして、各地域で「子育てひろば」を運営。組合員活動としての子育てひろば:339回、のべ参加人数3,159人。行政に委託されている子育て支援拠点事業10会場、84,614人 |
| 自治体との見守り協定締結           | 職員が配達の際、組合員や地域の高齢者などの異変に気付いた場合、事前に取り決めた連絡先に速やかに連絡・通報を行う協定です。170自治体  |
| 自治体・団体との災害協定締結         | 災害時の緊急支援物資提供などの協定です。千葉エリア28、埼玉エリア34、東京エリア15、計77自治体・団体   |
| くらしのたすけあいの会活動          | お互いさまの気持ち(共感)を大切に、くらしの中の困りごとで「誰かの手を借りたい」と思った時、組合員による有償のボランティアによって助けあう活動。活動回数13,602回、活動時間22,376時間            |
| くらしと地域づくり助成            | くらしや文化の向上、社会発展、地域の活性化をめざす市民団体の活動・事業に対して助成。千葉20、埼玉12、東京18、計50団体、総額846万円を助成                                   |
| 平和について学ぶ活動             | 平和の大切さを次世代に継承するために「知り、学び、伝える」ことを大切にし、平和について考える機会を広げています。戦跡巡り・学習会開催数13回、のべ参加人数334人(P38参照)                    |

# ガバナンス・内部統制

コープみらいは、ステークホルダーとの協同・連携を重視し、透明性、公正さ、適正さを確保しながら経営の効率性を高め、健全経営を全うすることをガバナンスの目的としています。

## 総代会での意思決定と監査

総代会は、生活協同組合であるコープみらいの組合員の代表、総代による最高意思決定機関です。総代は、各選挙区の組合員から選ばれます。通常総代会に向けて年3回、ブロックごとに総代会議を行い、通常総代会に提案する議案を総代と話し合い、その場で出された意見を議案に反映させています。そして、毎年6月に通常総代会を開催し、事業報告や事業計画、予算などを議決します。また、2年に1回、役員（理事・監事）の選任を議決します。なお、事業報告の適正さを確保するため、監事や公認会計士による監査を実施しています。

## 業務執行体制

コープみらいは、理事会を毎月開催し、業務執行全般に関する重要事項を決定するとともに、代表理事による業務執行状況を監督しています。理事会のもとに執行役員会を毎週開催し、コープみらいとコープデリグループ全体の経営課題について迅速な意思決定と業務執行を行えるようにしています。

また、サステナビリティ推進体制として、コープみらい・コープデリ連合会では「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」に沿って、課題・目標を執行役員会で確認し、進捗管理を行っています。

## 内部統制について

コープみらい・コープデリ連合会は、「内部統制に関する基本方針」を定め、7つの体制の整備を進めています。また運用状況を毎年点検し強化を図っています。リスク管理については、毎年事業経営に影響を与えるリスクを洗い出し、リスク評価から重点リスクを設定し、対応策の進捗を点検しています。

2024年度は、コープデリグループ全体で690項目のリスクを洗い出し、評価を行い、131項目の重点リスク（月次でのリスク管理）を設定しました。また、「安全運転」「情報セキュリティ」「食品の安全」「コンプライアンス」「人員不足・人材育成」「自然災害」の6つを共通重点リスクとして設定し、進捗管理を進めています。

## コンプライアンスの推進について

「コンプライアンスの考え方」「行動指針」「行動規範」を制定し、全体学習（情報セキュリティを含む）を全事業所で実施しています。一方、職員の行動規範に逸脱する行為などに迅速・適切に対応するためにコンプライアンス相談室（ヘルプライン）および公益通報「外部窓口」を設置し運用しています。

## 危機管理について

重大な事故が発生した場合に、その情報がトップに迅速・的確に報告され、適切に対応できるよう「クライシス・重大事故等対応規程」を整備し、運用しています。また、危機管理に関する連絡・報告、対策本部の運営、広報などに関する具体的な手順を整備し運用しています。さらに、不正アクセス等のサイバー攻撃から組織を守ることを目的としたサイバーセキュリティ対策や、個人情報を含む機密情報の保護を目的とした情報漏えい対策など、情報セキュリティの強化を実施しています。

## 地震・自然災害への対応

地震や台風・風水害・雪害などの大規模災害は、あらゆるステークホルダーに甚大な被害を与える可能性があります。コープみらい・コープデリ連合会では大規模な災害で被害を受けた場合でも、早期に事業を再開・継続できるように「事業継続計画書」の補強や、地震や自然災害を想定した訓練、職員の安否確認訓練、無線通信訓練などを定期的に行っています。

コープみらい組織図



7つの体制

|   |                  |
|---|------------------|
| 1 | コンプライアンス体制       |
| 2 | 情報管理体制           |
| 3 | リスク管理体制          |
| 4 | 効率性確保体制          |
| 5 | グループ会社など業務適正確保体制 |
| 6 | 監事監査確保体制         |
| 7 | 監事への報告に関する体制     |

# コープ(生協)について

コープ(生協)は、消費者一人ひとりが、くらしのさまざまな願いを協同し、実現するために、事業や活動を通して助け合う消費者の自発的な組織です。日本では「消費生活協同組合法」に基づいて設立され運営されています。一人ひとりが「出資金」を出し、事業や活動の「運営」に参加・参画し、「利用」する組織です。

コープ(生協)とは、正式には「生活協同組合」のことです。略称として、「コープ」がよく使われますが、これは協同組合を表す英語のCo-operativeから来ています。

生活協同組合は、農業協同組合、漁業協同組合、労働者協同組合などと同じ「協同組合」です。

世界中に多種多様な協同組合があり、国際協同組合同盟(International Co-operative Alliance, ICA)が定めた協同組合の共通のルール「協同組合原則」にのっとり運営

されています。

協同組合は、「共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすため、自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」と定義されています。

共通のニーズと願いを組合員が共同で所有する事業を通して実現する点や、管理は民主的に行われていなければならないという点が特徴となっています。



組合員一人ひとりが持ち寄る大切な出資金は、安全で安心できる商品づくりや宅配・店舗の運営など組合員の願いを実現するために活用されています。

組合員は、宅配や店舗で商品を購入したり、さまざまなサービスを利用したりします。

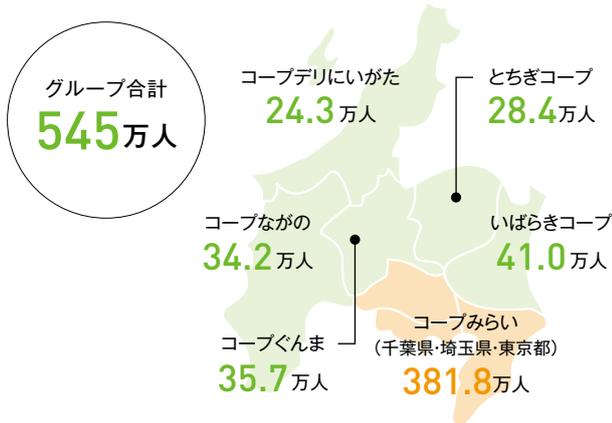
運営の主役は「組合員」です。組合員の声をさまざまな場で受け止め、事業や活動に生かしています。また、各地域で選ばれた組合員の代表である総代は、いろいろな場面で意見を出して話し合い、通常総代会では生協の事業計画や予算などを議決します。

# コープみらいとコープデリグループについて

## ■コープデリグループとは

コープデリグループは、6つの生協（コープみらい、いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、コープながの、コープデリにいがた）とコープデリ連合会、そのグループ会社で構成されています。

### ▶ コープデリグループ会員生協組合員数



## ■6つの生協とコープデリ連合会の関係

コープみらいをはじめとするコープデリグループの6つの生協は、コープデリ連合会に参加しています。会員生協とコープデリ連合会は、同じ理念とビジョンのもと、それぞれ独立した法人として事業や活動を行っています。

商品・物流・生産・システム・経理・人事教育などの共通基盤を整備し、宅配事業・店舗事業・サービス事業などの本部機能を持つコープデリ連合会を共同でつくり上げています。

コープデリ連合会は関東信越の1都7県、545万人を超える組合員の暮らしを支える生協として日本最大規模の事業連合です。

## ■コープみらいの概況

(2025年3月20日現在、事業高は2024年度)

|                |                             |
|----------------|-----------------------------|
| 名称             | 生活協同組合コープみらい                |
| 設立             | 2013年3月21日                  |
| 本部所在地          | 〒336-8523 埼玉県さいたま市南区根岸1-5-5 |
| 事業エリア          | 千葉県、埼玉県、東京都                 |
| 出資金額           | 728.8億円                     |
| 総事業高           | 4,334.2億円                   |
| 供給高            | 4,211.0億円                   |
| うち宅配事業         | 3,001.5億円                   |
| うち店舗事業         | 1,209.5億円                   |
| 共済事業           | 38.3億円                      |
| 経常剰余金          | 99.9億円                      |
| 正規職員在籍人数       | 3,094人                      |
| パート職員在籍人数*     | 10,175人                     |
| パート職員の正規職員換算人数 | 4,515人                      |
| 宅配センター数        | 76                          |
| 宅配車両台数         | 4,132                       |
| 店舗数            | 124                         |
| うちスーパーマーケット型   | 71                          |
| うちミニ型          | 53                          |
| 福祉事業所数         | 56                          |

\*「パート職員」はパート職員、アルバイト職員、介護ヘルパー職員の合計です

## ■組合員数・組織率

(2025年3月20日現在)

|         | 組合員数    | 組織率   |
|---------|---------|-------|
| 千葉エリア   | 92.7万人  | 31.8% |
| 埼玉エリア   | 117.4万人 | 35.3% |
| 東京エリア   | 168.2万人 | 22.2% |
| コープみらい計 | 381.8万人 | 27.4% |

## ■役員体制

※理事長・副理事長および常勤役員を記載しています

(2025年6月21日現在)

|               |        |
|---------------|--------|
| 代表理事 理事長      | 熊崎 伸   |
| 副理事長          | 河田 喜一  |
| 副理事長[非常勤]     | 古賀 摩希子 |
| 代表理事 専務理事     | 鳥羽 治明  |
| 常務理事(事業管掌)    | 大川 昌彦  |
| 常務理事(宅配事業本部長) | 長島 淳一  |
| 常務理事(管理・開発管掌) | 成田 章二  |
| 常勤理事(福祉事業担当)  | 圓尾 佐智子 |
| 常勤監事          | 木村 隆之  |

# コープみらいの事業と活動

## ■コープみらいの事業

### 宅配事業

「つかうほど、じぶんらしく。」をブランドメッセージに、週1回決まった曜日・時間帯にご自宅の玄関先まで、6,000品目以上の取扱アイテムから、ご注文いただいた食品や日用品をお届けする「ウイークリーコープ」、週3日からお弁当や料理キットをお届けする「デイリーコープ」の宅配サービスなどを行っています。



### 店舗事業

“おいしさと安心を、うれしい価格で。”を事業目標に、スーパーマーケットタイプとミニ店舗が124店舗※、さらにネットスーパーと移動店舗といった業態を展開しています。コープ商品や産直商品、店内加工品など、「コープならではの」のこだわり商品をそろえ、魅力的な売り場づくりに取り組んでいます。



※店舗数は2025年3月20日現在

### サービス事業

くらしをもっと楽しく、快適に。(株)コープデリサービスを通して、自分らしいくらしの応援をしています。チケット部門は心を動かすエンターテインメントを提供し、くらしのサービス・ハウジング部門は、便利で快適なくらしをサポートします。葬祭部門は故人への感謝とご遺族の新たな生活を支援します。

心豊かなくらしづくりを応援する4つのサービスをご用意しています。

#### チケット



#### くらしのサービス



#### ハウジング



#### コブセ(葬祭)



### 福祉事業

ケアプラン作成、ヘルパー派遣、障がい福祉サービス、デイサービスや(看護)小規模多機能ホーム「コープ夢みらい」の運営を通じて、「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」という組合員の願いに応えます。サービス付き高齢者向け住宅「コープみらいえ」では、入居者の自立した生活を支えます。



## 保障事業

CO・OP共済は、生協の事業として組合員の声をベースに、手ごろな掛金、いざという時に役立つ保障内容、わかりやすい手続きといった改善を常に進めながら、組合員とその家族に寄り添い、役立ち続ける事業を目指しています。また、グループ会社の(株)コープデリ保険センターを通じて、さまざまな保障ニーズに対応する保険商品を提供しています。



## エネルギー供給事業

組合員のくらしと未来にやさしいエネルギーをお届けするために、「再生可能エネルギー100%メニュー」と、より家計にやさしい「ベーシックメニュー」の2つのメニューからなる「コープデリでんき」を組合員に提供しています。その一部はコープデリグループの事業所の太陽光発電施設の電気です。また、一部地域では、経済メリットを追求した都市ガス事業「コープデリガス」を提供しています。



※コープデリガスは地域限定です。

## ■コープみらいの活動

くらしの中のさまざまな課題に関心を持ち、一人ひとりの力を寄せ合って協力し合うことで、くらしや地域をよりよくする活動に取り組んでいます。

### 参加とネットワーク

組合員の事業利用や活動参加が広がることでくらしをよりよくするために、地域の人々・団体とともに、豊かな地域社会づくりに参加しています。組合員や地域の人々がさまざまな活動をきっかけにコミュニケーションを重ね、つながりあい、つながりが網目のように広がることを目指しています。



行政受託の子育てひろば  
千葉寺子育てリラックス館  
あかちゃんタイム

### 食と商品

「知って、しゃべって、つながって、おいしいみらい」というキャッチフレーズのもと、くらしに役立つ「商品」について、多様な生活スタイルに共感しながら、組合員同士がコミュニケーションし、食育「たべる、たいせつ」の取り組みを通して、よりよいくらしづくりを進めています。



防災食クッキング

## くらし

人と自然が共生する社会と平和な未来を追求します。心身ともに豊かにくらしをようウェルビーイングを意識して、持続可能な未来のために、くらしを取り巻く多様な課題に向けて、学びあい、共感し、多彩な活動に取り組んでいます。



千葉県富津海岸での  
ビーチクリーン活動



ピースアクション in オキナワ



店舗でのフードドライブ  
(食品回収ボックス)



ユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」

コープみらいのサステナビリティサイト



コープデリグループのサステナビリティ  
Instagram



## 国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

【お問い合わせ先】

## 生活協同組合コープみらい

サステナビリティ推進部

〒336-8523 埼玉県さいたま市南区根岸1-5-5  
TEL. 048-839-1849 FAX. 048-839-1859



コープみらい／サステナビリティレポート  
読者アンケート

ぜひ、ご意見・ご感想をお寄せください。  
来年度の制作の参考にさせていただきます。  
(2025年10月31日まで)

